功績概要

【芸術文化分野】　名張子ども狂言の会（狂言）

名張市観阿弥顕彰会 子どもの部として、平成３年４月に発足した『名張子ども狂言の会』は、当初より京都の大蔵流狂言師　茂山七五三（しげやましめ）師〔※令和５年９月に人間国宝の認定を受けられる〕から、本格的な指導を受ける。

国民文化祭や東京国立劇場への出演を果たし、平成７年に、三重県平成文化賞に輝く。

平成９年には、米国オレゴン州アシュランド市での海外公演も行うなど、名張の伝統文化を披露し、継承と文化交流に努めた。

令和元年には、名張市制施行 65 周年記念並びに名張市観阿弥顕彰会創立 50 周年記念事業として『名張薪能』を開催。プロの能楽公演の前に、名張子ども狂言の会の子どもたちが 800 名の観客の前で堂々と狂言を披露した。

現在、観阿弥が座を興したとされる小波田地区の幼児から高校３年生までの 15 名が、月１～２回の練習に参加し、毎年、11 月の第１日曜日に開催される観阿弥並びに世阿弥を讃える『観阿弥祭』や、滋賀県大津市で恒例的に開催される『おおつなごみの会』に参加すると共に、名張市観阿弥顕彰会が『名張子ども伝統芸能祭り』を独自で主催し、名張市内で活動する子ども団体にも呼びかけながら、１年間の練習の成果を、共に舞台で披露している。

『名張子ども狂言の会』は、発足して 35 年目を迎え、名張市内での活動を活発に行うと共に、県内外における事業に積極的に参加するなど、長年に亘り、能楽の伝統文化を継承し、【観阿弥創座の地】である名張市を代表する団体として成長した。

創立当初から現在までに、茂山七五三師には 94 名の子どもたちをご指導いただき、七五三師の長男で大蔵流狂言師の茂山宗彦（しげやま もとひこ）師と共に、毎月の練習をお願いしている。

【芸術文化分野】　川合　俊平（合唱指導者）

同人は昭和 17 年８月 14 日に三重県津市に生まれ、中学１年生の時の音楽教諭の影響で合唱と出会った。中学の卒業生で立ち上げた合唱団に所属するほか、進学先の津高等学校でも合唱部に所属し、合唱漬けの毎日を送った。さらに、昭和 36 年４月、三重大学入学と同時に三重大学合唱団に入団し、学生指揮者を務めた。

大学卒業後は、平成 15 年３月に津市立養正小学校校長として定年退職するまで、県内の小中学校で音楽の教諭、教頭、校長のほか、津市の教育委員会の指導主事や文化振興担当主事などに従事した。

教員生活の傍ら、昭和 43 年５月に「津児童合唱団」を設立し、代表・指揮者に就任した。同人はそれまでの合唱活動で培った人脈を生かし、全国トップレベルの合唱団と合同で演奏会を開催し、合唱団の子どもたちに刺激を与えるとともに、一流の作曲家や作詞家に地域の民話をテーマにした楽曲を委嘱し、合唱ミュージカルや合唱オペラとして上演した。合唱団は今年創立 58 周年を迎え、延べ 2000 人の子どもたちが所属し、歌との豊かな出会いを経験した。

長年にわたる活動が評価され、平成 12 年には中日教育賞（合唱指導）、平成 23 年には三重県文化功労賞（合唱の指導と普及）、平成 31 年には三銀ふるさと三重文化賞（音楽部門）を受賞した。

同人の活動や功績は、本県の芸術文化の普及と発展に多大なる貢献をしている。